

あおい通信 第129号

日本の世界遺産めぐり その十九 明治の産業遺産② (文化遺産)

産業革命遺産として、三菱長崎造船所のジャイアント・カンチレバークレーンや第三船渠(ドック)、八幡製鉄所の修繕工場、三池港など稼働中の施設も構成資産に含まれる。19世紀後半から20世紀初めという時代を特徴付ける重工業を遺産として理解できるような残そうとすると、当時から今まで動き続けている施設も含まれることになる。海外では稼働中の施設の世界遺産登録は決して珍しくない。世界遺産登録には、国内法で保護されていることが求めら



現在のハンマー・ヘッドクレーン

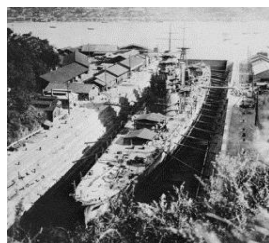
れる。日本の場合、文化庁は、文化財保護法によって重要文化財などの指定を受けていることを前提に登録を進めてきた。ただ、指定されると、わずかな現状変更にも文化庁の許可が必要になる。しかし稼働中の施設の場合

合「部品一つの補修でも許可を得てからとなれば、業務に支障が出る」(三菱重工)というのが当初の企業側の主張だった。政府は、稼働中の施設の登録を進めて地域活性化に役立てようと、2012年5月、同法以外の様々な法律を各施設に応じて適用して保全を図ることを閣議決定した。資産には、観光法、国有林野の管理経営に関する法律、港湾法、河川法などが適用されているためだ。元々保護を目的として



明治時代のクレーン

いない法律を保護に活用している施設も多い。また老朽化に伴う大規模な改修などがあった場合にも、世界遺産としての価値がそのまま認められるかは未知数。三菱重工は「クレーンが稼働しなくなったときには、国



明治時代の三菱長崎造船所第三船渠

や県、市と協議しなければならぬ」としており、将来に課題が残った形だ。編集長から▽
明治産業革命遺産は主に九州地域に集中しておりますが、一部、他県も含まれておりますので、紹介する順序がアトランダムになりますが、興味深い場所、建造物から、進めてゆく考えでおります。少々期間が長期化すると思いますが何卒世界遺産シリーズの最終件となりますので御理解と御容赦下さい。

世評・時評

呆れた産廃業者の横流し

近年中国の食品偽装問題、安全性、衛生面での扱いの酷さが報道されたのも記憶に新しいが、食の安全性について日本は先進国の中でも高い評価を頂いているのと思っていた。

弥次郎兵衛と喜多人は茶店に入った「東海道中膝栗毛」である。料理の煮魚を見て弥次が言う「ちと、ござった目もとだ」。目もとの活きが悪く、少し腐っているようだ、「ある」や「いる」の尊敬語(ござる)は不思議な言葉で、「駄目になる、腐る」の意味もある。

異物の混入した恐れがあったり、賞味期限が切れたり、いわば「ござっている」食品をたばこせられた人は薄気味が悪くて胃袋が落ち着くまい。産廃を請け負った処理業者が食品会社に横流しし、それを食品会社が小売店に転売する。いちばん「ござっている」のは経営者の心根だろう。ビーフカツ、チキンカツ、ロースカツ、ピンチョウマガロ、のフライス、炭火焼き鳥も、フライドチキン、じゃこ、みそ：横流しの商品リストは日に日に長くなっていく。ござるにしても、ほどがあるう。

この二社の場合は漢字を置き換えて、世の消費者を足蹴にした「膝足蹴」の二人連れである。旅の終わりには棘(いばら)の道になる。

ヨツチャン



十返舎一九『東海道中膝栗毛』挿絵

雑記帳

ニュー・ジャパニーズ
山村 匡子

ジャパニーズは、日本人と同時に日本語をも意味する。

二十一世紀を迎えた頃から、その両方がドンドン変化し、ニュー・ジャパニーズとも言える新しい日本人と日本語が出現してきた。

私ごとで恐縮だが、以前住んでいた荻窪のマンションを知人に貸している。先日若い人の声で電話が有り「マンションの事でお電話して下さいました」。「ハア？私共からお願したのですか？」と聞くと、「イイエこちらからして下さいました」と言う。言うまでもなく、下さいは相手に何か「してくれ」と頼む時の尊敬語だから、自分に使うのは可笑しい。この若者は多分「させて頂きました」のつもりで言ったのだらうが、日頃「頂く」のさばり「下さるが死語」になつてると嘆いていた私も、日本語の乱れも此



処まで来たかと呆れた。また、日常的に使われた「すです」は「すになります」にとつて代わられ、シヨシヨのうどんなはモチモチに。「何コレ！」は褒め言葉に、「ヤバイ」は本来の意味のほか素晴らしい、きれいな、美味しい等の意味になる。TVで若い女性がお刺身を食べて「アママイ」と叫んだり、焼き魚を「柔らかい」というのを聞くと、ツイ、辛い刺身や固い魚があるか！と毒づきたくなる。モチモチのパンと聞くと、さぞかし食べ難いだらうと思ってしまうが、もう感覚が違うのだ。今、反省か、危機感か

葵友の会 広報コーナー

1月度行事の結果

20日(水)川崎大師初詣バス旅行。20名の参加。川崎大師では参拝した後、くず餅、飴などのおみやげを購入。昼食は、インターコンチネンタルヨコハマの31階で中華。



2月度行事の予定

17日(水)30回記念麻雀大会。ベイブ。パンパンにて。27日(日)総会(事務局長)

3月度行事の予定

◆編集委員会より「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで

らか、クイズ等で日本語の問題が多くが出るが、あと十年もしない内に、今の若い人達の言葉や表現が主流になるだろう。格調高い美しい日本語を大切にしたい。私達人間は、私達人間なのだ。

利用者さんの
綴り「一」

横山 シツヨ(月、木)
手仕事が好きです。和裁を習ったり、手芸、刺しゅう、編み物をやっています。葵では体操をがんばっています。



原田 廣子(木)
葵で去年作った「クリスマスリース」がとてもよかったです。もともと手芸が好きなので、いろいろ挑戦してみたいです。よろしくお願いします。



三平 艶子(火)
ずっと洋裁をやっており、教室で教えていました。社交ダンスを趣味でやっています。葵では新しい仲間と知り合うことができて幸せです。



なんでも落語講座・参
終篇 絹田治夫

主人公と勝負する幽霊の通り名が「丁の目の半二」と、丁半博打そのままの名の由来というのは、落語らしくて洒落ている。ちなみに講談の【次郎長伝】においても、女房の名がお蝶だったので、清水次朗長は丁の目にしか張らなかつたという設定が登場する。私も昔人形町の末広で聞いたことがあります。そして、サイコロを三つ使ったもので人気が高いのが「チンチロリン」、もしくは「きつね」というギャンブルである。『今戸の狐』という断では、このきつねという言葉自体が、断の中で重要なキーワードとなつてく

津軽富士

鈴木清明

私は青森県北部、日本海に近い五所川原で生まれ育ちました。「人間失格」の太宰治や吉幾三等の古里です。国民学校二年の時、終戦、兄弟は七人と多く、私は六番目、配給が途絶え食べ物に苦労しました。中学三年の時、初めて食べたバナナが美味しかった事、鮮明に憶えています。

当時は巨人軍の川上選手が全盛で、野球、水泳に夢中だった私は、作文に将来の夢はプロ野球選手になる事と書いたものでした。高校は弘前に三年間、汽車通学。おふく

なキーワードとなつてく【専門用語を理解していれば博打断はもつと深く楽しめる】

ギャンブルの胴元が、参加者から聴取する場所代や手数料のことを指す「寺銭」という言葉が、今でも残っていることはよく知られている。これは博打が寺や神社の本堂などで行われていた名残です。寺が賭場に選ばれた理由は、そこが司法管轄の異なる治外法権だったからである。同じ理由で、落語には「細川様のお屋敷」が賭場として登場する。武家屋敷の中もまた治外法権だったので武士に雇われた中間などがそこで博打を

ろが早朝作る大きな弁当にご飯がいっぱい、オカズがちよびり入るドカベンが忘れられませんが、津軽には裾野が長く美しい津軽富士とも呼ばれる岩木山という標高一七〇〇米で、単体の山があり、父や兄に連れられて毎年のように登山してました。忘れられないのが「ご来光」です。深夜に登って、夜明け前に山頂に到着、日の出を待ちます。次第、次第に、明るさが増し、お日さまが地平線から鮮明に顔を出してくる荘厳さ、美しさ、まわりには白雲がたなびき、言葉には表せない感動を覚えたものでした。「ご来光」は心の糧と

打つていたので。「文七元結」主人公・左官の長兵衛が細川屋敷の袴纏を着て帰宅するのは、長兵衛が着ていた着物まで賭けた上でそっくり負けてしま、裸で往來を歩くわけにいかないで、袴纏を貸してもらったことを意味する。この時長兵衛がやっていたのが何の博打かは、断の中では言明されてはいませんが、女郎屋の女将が長兵衛に皮肉で「近ごろはめくつてばかりいるそうじゃないか」と言っているから、おそらく花札を使った博打であろうと推測できる。博打は総じて「打つ」と言うが、花札は「めくる」、囲碁・将棋ならば「指す」と動詞が変わるからだ。

また演者によっては、長兵衛に「私はめくる方じやなくて伏せる方です」と言わせることがあるが、そうなるも長兵衛がはまったギャンブルは、盆の上に壺を伏せるサイコロ博打ということになる。このように、ギャンブルは、おおつぱらに語ることでできないタブラーだからこそ、博打ならでなはの符丁や言い回しが存在する。そのため、ギャンブルを扱った断は独特の雰囲気をも出し出すのである。そしてそこには、現代にも通じる人生の機微が秘められていると言えると思います。

ふわふわおふわび助

なり、その後の人生の節目に、私を良い方向へと導いてくれた、「神様みたいなもの」と思っている次第です。

似て非なる漢字

入江 昭

聴覚障害者である銀座のクラブの筆談ホステスの話題になったが、昨春、北区議選でトップ当選を果たしてまたも、ニュースとなった。

さて、その筆談だが同じ漢字文化の中国で、どの位通用するのだろうか。「万里の長城へ行きたい」という文章は「万里の長城」の部分しか通じない。「行きたい」という所は「坐付

あおい俳壇・秋壇

元氣だよ おでかけ妻と メールでは
体調よりも 安堵が先に
血洗い 元の場所にと 言われても
場所は日替わり 洗いはなし

題詠「元」

大空の 広き明るさ 胸にうけ
今年こそはと なほ夢追はむ
なにげなき ひと言なれど 優しさが
胸に微かな ぬくもりくるる

梅もあり 楽もありて 八十路なり

孫ひ孫 多勢集いて 新年を

冬めくや 日差しを背にし 庭いじり
麻生伊登子
相田美代子

「去」と書く。同じ漢字だが、次の漢字は中国語ではどんな意味を表しているのだろうか。①手紙、②汽車、③愛人、④飯店、⑤机、⑥湯、⑦走る、⑧食べる、⑨トイレ
答①はティッシュペーパーのことで手紙は中国では「信」②自動車のこと、③汽車の列車は火車というが言葉、④ホテルのこと、⑤機械のこと、飛行機は飛行機、⑥スプーンのこと、⑦湯は開水という、⑧走は歩くこと、⑨走るは跑(あがく)、⑩食べるは吃(チイ)と書き、で麻雀(将)でもチイと言わずに食う、食ったと。⑨トイレは廁所で、宿で廁か(わや)を見かける。右記

のようにズレがあるので通じない。旧漢字文化圏の朝鮮半島、ベトナム、シンガポールは第二次大戦後、漢字を捨てた。日本でもかつては漢字を捨て去ろうとした動きがあった。明治五年文部大臣、森有礼も日本語をやめて英語にすべきだと提言した。戦後の二六年にも漢字を捨てようという動きがあったのである。

日本の文字は漢字、ひらがな、カタカナ類の文字を使い分けているが、中国ではカタカナもひらがなもない。従って欧米語や日本の「かな」もすべてかんで表記しなければならぬ。最後のクイズでしめる。「阿信」朝ドラで有名「美空雲雀」歌手

雑学館

「片腹痛い」とは

「三得利」企業名「方便麵」食べ物「因特網」パソコン関連
身の程知らずな相手をあざ笑う時「片腹痛い」と言うが、「片腹痛」とはどを指すのだろうか。多くは文字通り片方の腹を指すに違いない。確かに笑いすぎた時、腹が痛くなるが、この片腹痛は元來腹のことではない。そもそも「かたはらいたい」とは「傍(かたわら)で見ている意味。かたはら」とは「傍ら」のことなのだ。それがいつの間にか片腹痛と間違えて、現在にいたっているという誤だ。